

平成14年7月10日。台風6号の直撃で濃尾平野の北西部に位置する大野町の根尾川右岸堤防が決壊し破堤寸前となった。暴風雨・大洪水の中、揖斐土木事務所、大野町消防、警察など関係機関が見守る中、根尾川を管理する国交省木曽川上流河川事務所の指示の下、流域の同業他社と共に決死で破堤の危機を回避するため応急対策作業を行った。この懸命な作業の結果、辛うじて破堤をくい止める事ができた。しかし、2日後には別の台風7号接近の情報が入った。決壊場所の50



根尾川決壊・地域を守れ！(上)

山辰組社長 馬淵和三

0以上流地点から河床を掘削し、流れを中心に向けて決壊場所へ再び直撃するのを防ぐ必要があった。この緊急作業からは弊社で行う事となった。その日の内に自社や協力会社の大型バックホー17台を緊急招集し、川の中心線に間隔を空けて配置して、夕方には一斉に土砂掘削作業を開始した。再び迫りくる台風を前に、住民の皆さんが不安を隠せない様子で、作業を見守る切実な思いが伝わってきた。徐々に暗くなり荒れた河原で、長い首を持ち上げ動く無数のバックホーの姿は、まるで

で恐竜時代を想像させられた。掘削土量が多く作業は難航した。現地で指示する国交省の方々も、作業を行う私たちも必死の思いで一晩を徹し、翌朝、薄明るくなる頃には見事に流れを変えていた。まずは次の台風対策の心算に間隔を空けて配置一つをこなしたが、仮の復旧がしてあるだけの決壊場所を、より強固にするための24時間態勢での不眠不休の作業を急がねばならなかった。自然災害への対応は、地域を知り工法を熟知し、私たち地域の建設業の役割であるという思いが背中を押してくれた。